生活綴り文集

登美南誌録

第三巻

目次

文集（縦書き版）

前を向く　Y・M
私の決断　ムツ子さん
家庭菜園　たけやみそ
琥珀色の了解　現の一族
「やられたらやり返す　倍返しだ！」　Michiko

・・・1

文集（横書き）

私と南海ホークス　チリリン坊や
レモンと孫　河口　純子
奈良はまほろば　南　登美三郎
ベランダで　玉三郎
我らが高齢者　森部　高英80歳
私と登山　Toshi
書く苦しみと読む楽しみ　グリーン侍
コロナ禍を経験して　雨がすき。
私が子供の時　三河　倫子
情報の偏り　冨宅　俊夫
兄　ジェーン
「事実」と「真実」　T・T
「アンスリウムに魅せられて！」　美穂
六十の手習い　R・M
「だから、今から…」　寧楽の雀
初秋の晩酌　新井　忍

・・・3

編集後記

応募条件・編集方針

・・・8

登美ヶ丘南公民館主催講座　「くらしの文章教室」
第２回　宿題 ： 二百文字文集

前を向く

Ｙ・Ｍ

六十歳になったある日、六十の手習いで何か勉強したいと思った。
東京、大阪、札幌と転居を繰り返し、終の場所と選んだのがここ奈良。
奈良に住んで奈良の事をあまり知らない。
そんな時「奈良を学ぼう」「奈良を知ろう」という会を見つけた。早速入会したい由電話すると、全員が集っている会場へ来てほしい。
そこで全員の面接があるから…と…「エッ！」「コワッ」でも奈良を学びたい一心で思い切って会場へ向った。会場では全員揃って待っていた。私はおそるおそる皆様の前へ…

私の決断

ムツ子さん

この夏は大きな決断をした。八月後期高齢を迎え放送大学編入学に向け行動を開始した。
五十五年前に卒業した大学に行き成績卒業証明書を依頼放送大学に送った。手続き完了後は三年次に編入学となった。以後二十九単位を六年間内で取る事になる。健康を維持しながら“人間と文化”の卒業をめざしたい。呑気にしていたが新たな挑戦で生活に目標とハリが出てきた。前期末提出の西田幾多郎の授業後期で受験となるが難解だ！

家庭菜園

たけやみそ

庭の畳３枚ほどの場所で、家庭菜園している。今夏は、トマト・ゴーヤ・ピーマンなど沢山収穫した。秋野菜は、彼岸花の咲くころから植付が始まる。先日菊菜・白菜・ほうれん草など植えた。
園芸は、楽しい反面苦労もある。水やり、肥料入れ、害虫との戦いなど手間・暇かかる。が趣味として実益も得られる。
植物を育てるのは、子供を育てるのと共通。愛情をかけ、目をかけることで結果が出る。

琥珀色の了解

現（うつつ）の一族

アカンアカン。某、最近感情線乱れっぱなしやで！ここらでいっぺん平常心に戻っとかな。木枯らしが吹く前にあなた様の顔見とかんと。23才の時に一目惚れした人いてまして。テへへ…ひさしぶりなので某の事などたぶん覚えてないかも。

古の色合いに一陣の風が巻き上がれば、嗚呼、その凛凛しさ、逞しさ。

鎧を身に着け、剣を構える。怒髪に眼を見開き、声を荒らげる

伐折羅神将に某、熱い熱い「喝」を頂きに参りました！！

「やられたらやり返す　倍返しだ！」

Ｍｉｃｈｉｋｏ

一九四五年八月六日ホワイトハウスからのラジオ放送「パールハーバーで無警告攻撃をした者たち、アメリカの捕虜を餓死させ殴打し処刑した者たちに対して我々は原子爆弾を使用した。戦争を早く終らせ多数の若いアメリカ人の生命を救うために」などと大統領。正に「やられたらやり返す、倍返しだ」だから戦争は始めてはならない。戦禍のウクライナ、市民の思いは如何ばかりかと。今プーチンは原子爆弾使用をちらつかせている！

登美ヶ丘南公民館「くらしの文章教室」
第２回　宿題　：　200 文字文集

私と南海ホークス

チリリン坊や

私は南海ホークスが好きだ。今は名前がソフトバンクホークスに変わっている。長崎出身なのになぜか小学生の頃から南海が好きでファン歴５５年。小学４年の時に大阪の叔父さんに野球観戦に連れて行ってもらった。阪神・巨人戦を勧められたが、たっての希望で大阪球場に決まった。初めての野球観戦はナイターでの近鉄戦。カクテルライトに照らされた南海戦士の姿に感動した。夢は福岡の PayPay ドームの年間予約席で毎日観戦する事である。

レモンと孫

河口　純子

15 年前長男が結婚時にくれたレモンの木、枯れることなくすくすくと育ち毎年豊作でした。
はちみつ漬け、ジャム、そして友人への配達と楽しんでました、が１１年程前からぱたっと実をつけなくなくなり、ガッカリ。そんなある日、赤ちゃんが　の知らせ。植樹から１２年経っての事でした。びっくりするやら嬉しいやら心配やら。無事誕生するもコロナ、海外赴任と会えるのは web 上だけ。庭のレモンの木を眺めながら孫の成長を祈る今日この頃です

奈良はまほろば

南　登美三郎

奈良へ行く、外国（とつくに）から、日本の各地から奈良へ行く。
奈良は事始め数多あり。
奈良は国の始めなり。
お茶、うどん、お菓子、豆腐、私の大好きなお酒も奈良が発祥。
記憶から記録へなくては為らない筆、墨も奈良が発祥。
日本の国技相撲も奈良が発祥。
日本の心「わびさび」のお点前の世界も奈良が発祥。
鹿が喜ぶせんべいは、江戸時代、浮世絵美人が持っているのが奈良の絵地図に描かれている。
鹿せんべい。やはり奈良が発祥。

ベランダで

玉三郎

盆休みに安・近・短の家族旅行に出掛けた。帰宅するとベランダの朝顔が台風の影響で洗濯機に纏わり付いていた、妻が「朝顔に・・・貰い水」の句風にポリ盥に洗剤を入れ旅行着を手もみ洗いしている、中々優しい人だ！その背中を見ると私が子供頃お袋が厳寒の朝に皸に負けず一家の衣類を洗濯して居た背中が思い出され「我妻も遣るな⁉」夕餉時に盥と母の背中で盛り上がり感謝と優しさを摘まみに酔いどれ二日酔いで目覚めた。

我らが高齢者

森部　高英 80 歳

怒っている。自分自身と世の高齢者と世の中。人口減少、進む高齢化、激減する生産年齢人口。因みに私の住む地区、居住人口約 2200 人の高齢化率は、45％とずば抜ける。私が怒っているのは、高齢者が太平楽を決め込んでいることだ。そのことを容認している社会と政治。旅行・趣味の会・食事会あとはゴロゴロ。この国はもうすぐ潰れるだろう。憂えている。兄弟よ、甘えないで欲しい。社会よ、甘やかさないでほしい。いよいよ高齢者の出番だ。

私と登山

Toshi

今年の夏は白馬三山を縦走した。５０代半ばで富士山に登り、高山に魅了されてから標高３０００メートル前後の山々を毎年登っている。森林限界を超えた山の頂上や稜線上からの見晴らしは素晴らしく、絨毯のような雲海や、その先の遥か遠くの山々が見渡せる。今回も右側に穂高連峰や槍ヶ岳、左側に富士山や南アルプスの山々を見ながら気持ちよく縦走できた。下山後の温泉も最高である。来年はどの山に行こうか。今から楽しみだ。

書く苦しみと読む楽しみ

グリーン侍

くらしの文章教室は、そろそろエンデイングノート作りをと思い立ち、書く力を付ける為に参加。とは言え作文は苦痛。テーマ探しで苦心、言葉が浮かばず苦悩、宿題は苦労の連続。それでも他の方々の文章を読むのが楽しく、二時間の講座を短く感じた。其々文章に個性があり共感できて、中でも映像が思い浮かんでくる作品には感心する。「私と花仕事」や「私と橙色の誘惑」は短編小説を読む気分、後者は芥川龍之介の「蜜柑」を連想。苦手な作文を何とか済ませ、多彩な作品を読むのが次回も楽しみです。

コロナ禍を経験して

雨がすき。

夕食のカレーライス。カレー粉入れ過ぎたかなと思っているうちに
喉がひりひり、咳がとまらなくなりなんだか熱っぽくだるい。
翌日検査で陽性診断。即１０日間の自宅待機。
インフルエンザにもかかったことないのに。
薬が効いて３日目くらいからからだはずいぶん楽になった。
でも窓からの景色がいつもと違う。私だけ時間が止まった様。
そしてやっと１０日目の朝、ドアを開けた時の空の青さ、空気の
美味しさを私は忘れない。

私が子供の時

三河　倫子

土岐君は背が高く、胸に級長の札をつけ、下級生を引率し、朝礼台で号令をかけた。私の憧れの人だった。或日私達は校庭に整列した。戦闘帽をかぶり、足にゲートルを巻いた土岐君が、朝礼台で挙手の礼をした。湯浅国民学校を卒業した彼は、満蒙開拓少年義勇団に入団したのだ。私達は何度も両手を振りあげ万歳を叫んだ。敗戦後、私は何処の地に居ても、折にふれ土岐君は無事帰って来ただろうかと思うのである。90 才近い今も、フと思う。
コト　すでに忘れ去られようとしている当時の子供の、平凡なしかし健気な日々を、書き残したいと思います。

情報の偏り

冨宅　俊夫

現在オミクロン⑤が流行っている。米国では当然⑤対策用としてのワクチンを接種する予定だ。しかし日本では、武漢型とオミクロン①型を混ぜた接種が開始されている。⑤には当然効果が無い。副反応があるばかりである。その後に⑤用を接種する事になる。既に 8 億回分を購入済だ。そこまでしてワクチンを消化したいのか、国民に知らせるべきだと思う。

コト：情報については、発信する側と受取る側とでは、非対称で、偏りがある。
　　知っている人と知らない人の格差が大きい。
キモチ：その事実を知って、判断してもらいたい。

兄

ジェーン

4 人兄弟で男 1 人、1 番上の兄が 3 年前に亡くなった。直後、私の頭に浮かんだ画像は兄が金色の蝶の群れと共に立ってその後、蝶と共に前を向いて行ってしまうという不思議なものだった。

昔「来い三四郎」「はい先生」と言って柔道ごっこをしてくれた強烈に楽しい思い出。

まだまだやるせない気持ちが訪れることはあるけれど、語学堪能な兄の事、向こうで色んな人との会話を楽しんでいるに違いない。

「事実」と「真実」

T．T

司馬遼太郎が一つの例を挙げ、「事実ほどつまらないものはない」という講演録を聞いた。ではと、大賀一郎博士揮毫の「真実第一」との関係はいかにと、すぐ辞典を引くとどちらも「本当のこと」としか書いてない。そこで、賛否両論入り交じる神武天皇の実在説は「事実」と「真実」どちらの基準で考えるのがよいのか？証明できる「事実」があればそれを加えた上で、多くの人が基準と認める正史の日本書紀を「真実」と考えるのがよいと思った。

「アンスリウムに魅せられて！」

美穂

十数年前、観たことのない鉢植えを頂いた。
それは、スッと伸びた茎先に、ハート型の葉と鮮やかな花色（仏炎苞）が魅力のトロピカルな雰囲気漂うアンスリウムだった。
ところが秋風が吹く頃には、元気を無くし枯れてゆく。枯れては購入を重ね夢中になり、気付くと空鉢が積み上がっていた。
近年、育て方の習得に励み、一年中 開花し続けるまでになったが、今年 6 月、初の植え替え直後に酷暑が始まり全滅した。
あぁ～！再チャレンジだ！
追記

※花のような部分は「仏炎苞 ぶつえんほう」という。
実際の花の部分は棒状の部分。

六十の手習い

R．M

2018 年秋、北福祉センターの「オカリナ教室」で初めてオカリナを手にした。
息を入れれば音が鳴る。指使いも難しくはない。簡単な曲ならすぐに吹ける。ほめ上手な先生が丁寧に教えて下さった。楽しい教室だった。
コロナ禍で教室は休止になり、未だ再開されていない。仕方なく、数人で練習している。オカリナの奥深さに試行錯誤中だが、「楽しい！」癒される。
「六十の手習い」、さまざまな出会いは楽しい。

「だから、今から…」

寧楽の雀

この前「認知症について」の公民館学習会に参加した。
いつか僕にもふりかかる病気。
あなたの負担になることの恐怖。
もうそこに僕が居ないのでは無いだろうかという重く暗い不安。
しかし、その時に僕はあなたの笑顔を覚えていないだろう。
でも、認知できないことを恥じず認めることが大切で重要と学んだ。
だから、今からその日のために付箋と鉛筆を買いに行ってこよう。
あなたの笑顔が終わらないうちに。

終わり

初秋の晩酌

新井 忍

ガッシャンと大きな音。ここはスーパーの駐輪場。中年女性が倒れた自転車と格闘中。駆けつけて「自転車起こすから荷物を…」と声をかける。イエ大丈夫と答えの間にもヨイショと元に。バッグに荷物を詰めた彼女は「ありがとう！これ持ってって」と缶を 1 本私の手に。イヤそんなと答える間に自転車にまたがり「助かった～」と去る。父に顛末を語り、もらった缶ビールを半分コの晩酌を楽しんだ。缶に紅葉の柄のビールは濃厚な秋の味。

※原文のまま転記しています。

◆編集後記

この『登美南誌録』シリーズは、遡ること２年前、新型コロナウイルス感染症（第１波）により、令和２年（2020 年）４月 10 日～6 月２日の間に臨時休館を余儀なくされた当公民館が、再び活動を始めるきっかけとして、利用者と職員との何気ない会話の中から発想され、主催事業「学びの活動紹介展」の特別企画として、「コロナ禍の私と公民館活動」をテーマに利用者や地域住民から原稿を募集して編集し『登美南誌録』（令和２年 12 月）として創刊したのが始まりです。

新型コロナウイルス感染症は更に第２波、第３波と猛威を振るい、令和３年４月 25 日～5 月 11 日には再び公民館が臨時休館となりました。再開後も感染は今なお続いており、現在は第８波の兆しも見え、まだまだ予断を許さない状況であり、人々は不安を抱える日々を過ごしています。

そのような状況であるからこそ、日々の些細な出来事やふとした発見、心の動きなどを丁寧に見つめることで、心の豊かさを大切にしようと考え、令和３年度に公益財団法人奈良市生涯学習財団 登美ヶ丘南公民館主催事業として「くらしの文章教室　～想いを書くこと、綴ること～」（全２回）を開催。フリーライターの新井忍先生のご指導のもと、文章を書くコツについて学びました。その時の宿題として受講者から寄せていただいた２００字の原稿を編んで教材にし、さらに学習を深めました。終了後、原稿に各々で加除・修正していただき、当館が中心となり再編集して『生活綴り文集　登美南誌録　第二巻』（令和３年 12 月）を発刊いたしました。

講座はとても好評で、引き続き令和４年度においても、新井忍先生のご指導のもと講座回数を増やして開催し、その時の皆さんの原稿を集約、加除・修正、再編集したものが、この『生活綴り文集　登美南誌録　第三巻』（令和４年 12 月発刊）であります。

文集には、社会の出来事、生活での経験や想い、生きてきた人生を振り返られての出来事、未来への想いなどが個性豊かに表現されています。これらの文章から多様な生き様や新たな着眼点に触れ、自らのくらしや社会の実像を見つめるきっかけとしていただき、また、あらためて「文章」というものの魅力を感じとっていただれば幸いです。

令和４年 12 月３日
登美ヶ丘南公民館
館長　福山　哲治

■提出条件

・「くらしの文章教室」受講者対象
・二百字以内 ※タイトルを含まない
・原稿は手書き、パソコン、ワープロなど、メール提出も可
・令和 4 年 10 月末締切り

■編集方針

・明らかな誤字・脱字以外は、極力、提出された原稿通りに掲載した。
・縦書き、横書きは文章の内容・印象に影響するので、提出された書字方向で掲載した。
・著者名は匿名・イニシャルでも可とした。
・文中に過度又は不適切な表現等が含まれる場合は、編集過程にて本人と相談の上で修正させていただいた。
・原稿に講座で学んだ①コト②キモチ③タネ等が添えられているものは、そのまま掲載した。

生活綴り文集

登美南誌録　第三巻

編集・発行　登美ヶ丘南公民館

発行日　令和四年十二月三日

〒六三一‐〇〇一三

奈良県奈良市中山町西二丁目九二一‐一

電話／ＦＡＸ　〇七四二‐四七‐六三七五